

環境調査結果のお知らせ

令和6年5月2日10時から浦ノ内湾の環境調査を実施しました。

概況

検鏡の結果、魚類に対して有害なシャットネラ属が最高で1 cell/mL、ディクチオカ属が最高で15 cells/mL、コクロディニウム・ポリクリコイデスが最高で8 cells/mL確認されました。浦ノ内湾でコクロディニウム・ポリクリコイデスが出現することはまれですが、100 cells/mL以上で漁業被害発生のおそれがありますので、十分注意してください。

海や養殖魚、貝類の状態に不安や変化を感じた時は、良く洗ったペットボトルに海水を汲むなどして、水産試験場か中央漁業指導所まで連絡してください。

調査点 (透明度) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン			
	深度 (m)	水温 (°C)	塩分	溶存酸素 (mg/L)	シャットネラ 属	ディクチオカ 属	コクロディニウム・ ポリクリコイデス	アレキサンドリウム 属
A 鳴無 (1.8m) 【10:12】	0	19.3	16.3	10.8	0	0	0	0
	2	22.0	28.9	9.9	1	0	8	2
	5	20.0	30.7	6.8	0	15	0	1
	底層 8.5	19.2	31.1	4.5	0	8	0	0
B 中学校前 (2.1m) 【10:21】	0	20.2	18.9	10.2	0	0	0	0
	2	21.6	29.0	9.8	0	0	0	0
	5	20.2	30.7	8.0	0	0	0	0
	10	19.2	31.1	5.1	0	11	0	0
底層 12	18.8	31.3	3.6	0	0	0	0	
C 目ノクン (2.1m) 【10:29】	0	20.0	23.2	9.5	0	0	0	0
	2	21.2	29.6	9.4	0	1	0	0
	5	20.0	30.9	7.0	0	10	0	0
	10	19.2	31.3	5.0	0	0	0	0
底層 15	18.3	31.8	2.2	0	0	0	0	
D 光松 (2.1m) 【10:40】	0	20.3	25.4	9.3	0	0	0	0
	2	20.4	29.4	8.1	0	0	0	0
	5	20.1	30.8	6.8	0	0	0	0
	10	19.1	31.4	4.9	0	0	0	0
底層 16.5	18.5	31.9	1.6	0	0	0	0	



- A: 鳴無
 B: 中学校前
 C: 目ノクン
 D: 光松

参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準

有害プランクトン	被害	注意基準 (※1)	警戒基準 (※2)	主な赤潮発生時期 ※3		
				浦ノ内湾	野見湾	宿毛湾
<i>Karenia mikimotoi</i> (カレニア・ミキモトイ)	魚類等のへい死	100 cells/mL	1,000 cells/mL	5~8月	6~8月	—
<i>Chattonella</i> spp. (シャットネラ属)	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	6~8月	—	—
<i>Cochlodinium polykrikoides</i> (コクロディニウム・ポリクリコイデス)	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	—	2~4月	5~6月
<i>Heterosigma akashiwo</i> (ヘテロシグマ・アカシオ)	魚類等のへい死	5,000 cells/mL	50,000 cells/mL	3~12月	4~8月	4~11月
<i>Dictyocha</i> spp. (ディクチオカ属)	魚類等のへい死	—	5,000 cells/mL	6~7月	4月	—
<i>Takayama</i> spp. (タカヤマ属)	魚類等のへい死	—	10,000 cells/mL	8~9月	—	—
<i>Heterocapsa circularisquama</i> (ヘテロカプサ・サーキュラリスカマ)	二枚貝のへい死	—	500 cells/mL	8~11月	—	—
<i>Alexandrium</i> spp. (アレキサンドリウム属)	二枚貝の毒化	10 cells/mL	100 cells/mL	—	1~4月	3~5月
<i>Gymnodinium catenatum</i> (ギムノディニウム・カテナータム)	二枚貝の毒化	—	1 cell/mL	—	—	2~7月

※1 注意基準：餌食いの悪化、警戒基準に達する恐れのある密度

※2 警戒基準：魚類及び二枚貝のへい死並びに二枚貝の毒化が想定される密度

※3 あくまで目安なので、水産試験場・漁業指導所の広報や養殖魚の状態に応じて、慎重な養殖管理をお願いします。